

種子の増産スケジュール（飼料用米の多収品種）

- R4年産の飼料用米は、すでに多くが籾摺りを終了しており、今から種子としての転用※は困難。このため、R5年産の飼料用米について、多収品種を前提とする場合、種子が不足。
- R6年産については、早期に種子への転用を行うことで、基本的に多収品種での生産が可能。
- この際、円滑な種子転用に必要な話し合いや、発芽試験に係る経費等の支援を検討。

※ 種子の転用とは、飼料原料向けなど種子以外のために生産した収穫物（籾）を、発芽試験等の品質の確認を行った上で、県種子協会等が翌年産のは種用に仕向ける「転用種子」とすること。

